

## 本の紹介

藤井敏嗣著「火山：地球の脈動と人との関わり」  
(サイエンス・パレット) 新書, 丸善出版, 280p,  
2023年7月3日発行  
1,500円(税別), ISBN978-4621308097

本書は丸善のパレットシリーズの一冊なので、小さな書籍だが、火山に関する知恵がたっぷり入っている。構想がよく練られていて、よく整理されている結果だろう。著者は気象庁火山噴火予知連絡会会長(2003~2017年)やNPO法人環境防災総合政策研究機構理事(2010年より)などを務め、火山研究者として、火山災害、防災の最前線にいた。現場に立ちながら、ずっと温めてきた考察が本書には満載なのだ。

著者はいう。「長年の研究にも関わらず、火山噴火の発生を予知し、噴火推移を的確に予測し、事前に火山災害から確実に逃れる手法は確立していない」、「火山噴火の際に行政が適切な避難情報などを発出できることは限らないことを意味する」、「個々人が火山についての正しい知識を持ち、噴火に遭遇した時に自ら身を守るための対応を判断できることが望まれる」。噴火から身を守るだけでなく、観光、登山、さらに楽しむための知識がぜひとも必要で、それを本書で披瀝している。また、類書の中には「著者が学生時代に学んだ古い知識が更新されていないためか、勘違いや誤りも多くふくむものもある。…誤った知識が定着することには耐えられない」とも著者は書いている。

目次は以下のようになっている。

- 第1章 火山とはなにか
- 第2章 火山噴火
- 第3章 日本のおもな噴火
- 第4章 マグマ その1：マグマの特徴
- 第5章 地球内部の構造と物質
- 第6章 マグマ その2：マグマの生成
- 第7章 火山を調べる
- 第8章 火山災害
- 第9章 火山防災
- 第10章 火山の恵み

実は評者は第3章から読み始めた。それも、一番よく知っているつもりの伊豆大島1986年噴火について読

み始めたが、知らないこと、なるほど噴火の前にこんな論争があったのだなどと思うことは多かった。他の、富士山貞観噴火(864~866年)／富士山宝永噴火(1707年)／浅間山天明噴火(1783年)／桜島大正噴火(1914年)／雲仙普賢岳噴火(1990~1995年)／有珠山2000年噴火／三宅島2000年噴火／霧島山新燃岳／御嶽山2014年噴火／西之島噴火などについても、実際にそれぞれに関与していなければわからない、多くのことを教えてくれる。

火山についての認識が改まったのは、たとえば、現在は活火山・休火山・死火山の定義は使われていない、過去1万年から現在までに噴火した履歴のある火山を活火山とすると、世界には約1500、日本には111あるが、もっと増えるかもしれないことがきちんと説明されている。最近、地学教育界で話題になった、黒くない玄武岩・黒っぽい安山岩のあることもきちんと説明されている。気象庁でよく使われる「大きな噴石」、「小さな噴石」も一考を要する事も知った。噴火の予測として伊豆大島の階段ダイアグラムは使われることがあるが、問題を含むことも知った。読者が不思議だなど思う質問を持っていると、本書はきちんと論理的に答えてくれる。多くの方が本書を手にして、火山の認識が深まるとよい。

「第7章火山を調べる」で著者は我が国の火山観測の歴史を述べ、「第8章火山災害」に続けて「第9章火山防災」の最後の「我が国の火山防災体制とその課題」で、現状はいささか心もとないことも述べている。火山研究者ももっと増えて、火山学が進むことも重要である。なお日本火山学会は2015年に下記書籍を出版していることも添えておく。

(東京都立大学 矢島道子)

### 文献

日本火山学会編(2015): Q&A 火山噴火 127の疑問 噴火の仕組みを理解し災害に備える(ブルーバックス) 新書, 講談社, 東京, 256p.

2023.9.14 受付

2023.09.23 学会ニュースレーター公開

2023.10.01 学会 HP 公開